

経営比較分析表

長野県 佐久穂町

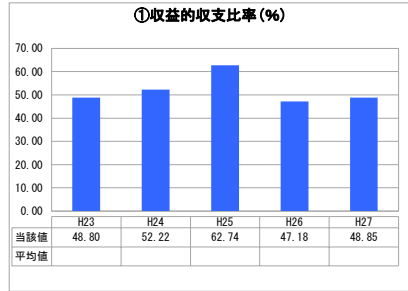
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	10.75	92.05	4,341

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,818	188.15	62.81
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,263	0.52	2,428.85

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



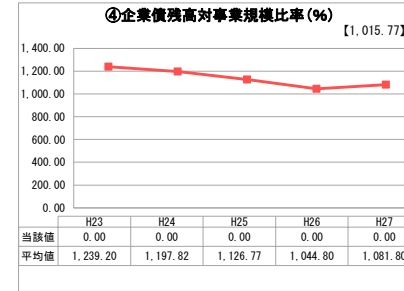
「単年度の収支」



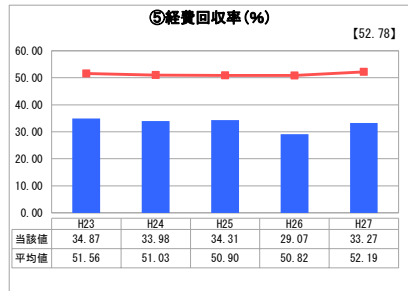
「累積欠損」



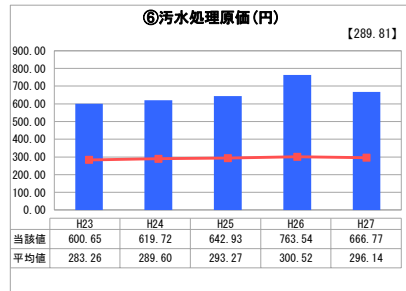
「支払能力」



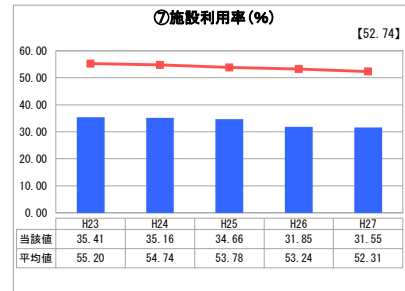
「債務残高」



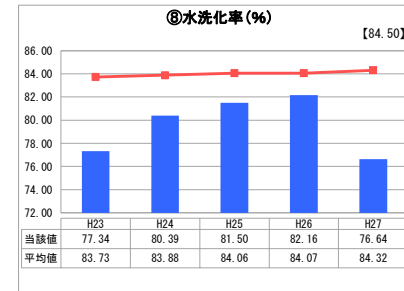
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

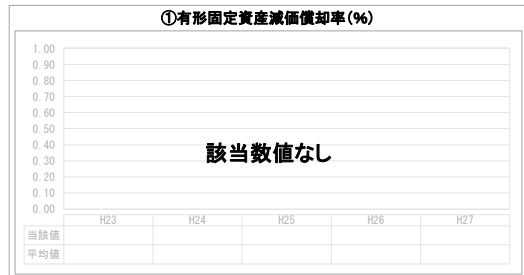


「施設の効率性」

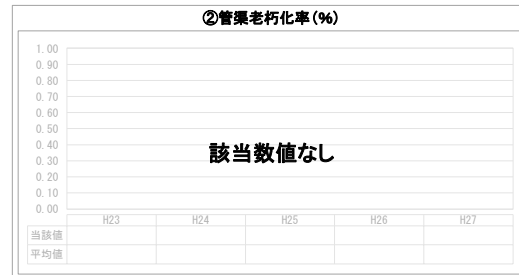


「使用料対象の捕捉」

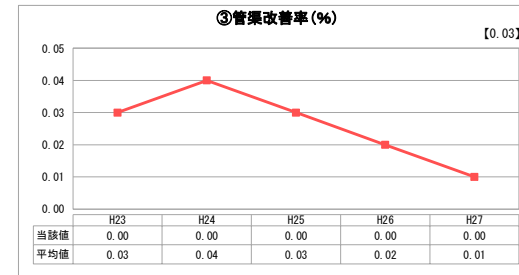
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

現在の処理区域は比較的、山間部に位置しており人口減少、高齢化さらに排水量の減少等により、料金収入の増額は見込めない。また、供用開始から15年が経過しており維持管理費も増加傾向にあり、料金改定も視野に入れた経営改善が必要かと考えられる。

2. 老朽化の状況について

供用開始から15年が経過しており管路以外は、電気・機械類はすでに耐用年数を迎えており、定期的な清掃点検を行い適正な維持管理を行う必要がある。

全体総括

今後、公共下水への接続・料金改定を含めた経営改善を図る必要があると考えられる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。